

ジャパンプローブの新社屋が竣工 オープンイノベーションセンターを設置

ジャパンプローブ(小倉幸夫社長・横浜市南区)の新社屋が先(19)日竣工し、7月より業務を開始した。3階建ての新社屋には、同社の基盤技術である探触子(プローブ)の研究開発・製造機能に加え、異業種との共創プロジェクトを推進する「オープンイノベーションセンター」を開設。従来のプローブメーカーの枠を超えた、社外の技術やニーズを巻き込んで新たな市場を切り拓く「推進機関」としての全貌に迫る。

異業種共創プロジェクトを加速

ジャパンプローブは、新技術や新製品開発の拠点として2019年に「オープンイノベーションセンター」を開設しているが、今回完成した新社屋は「オープンイノベーションセンター」と称し、他業種との連携や共同研究を通して「社外の優れた知恵や技術を巻き込んだ新たな価値」を発信する。

「NAUT 21」専用ラインを整備

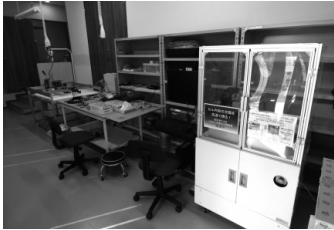
1階部分には、空気中で非接触のまま超音波検査・計測を行う「NAUT 21」のアセンブリラインを配置。フレームやスキヤナの組立からシステム系の最終セットアップを一貫して行える動線を

世界トップレベルのセンサ技術を担う「第三製造課」

1階には、探触子の重要部品である振動子を製造する。



完成した新社屋



NAUT 21の専用ライン



第三製造課は世界トップレベルのセンサ技術



全数検査を基本とする品質管理課

ジャパンプローブでは、製造パーツの一つひとつまですべて自社で内製化している点も大きな特徴だ。

1階の機械加工室には、各種切削加工機を配備している。星野秀和常務取締役は「内製化はコスト削減のための施策ではなく、競争優位を確立するための戦略的投資だ。短納期対応、品質の一貫性、設計自由度の高さという三つの価値を同時に提供できる」と語り、内製化体制が開発スピードの最大化にも寄与していることを強調する。

3Dプリンタと独自配合技術

2階の生産技術課では、NC加工機や3Dプリンタを用いてプローブ設計や部品製造、試作品の検証を行う。

異業種共創の拠点「オープンイノベーションセンター」

3階は、他社や研究機関といった外部との連携を通じて、技術開発や新たなビジネスモデルを生み出す象徴的なフロアだ。同社の高いセンサ技術

メーカーの一つ」と説明する。同社の「曲探」に採用される薄型バックギン材は継続的な技術開発の成果であり、従来の探触子にはなかった柔軟性と薄さを実現している。

創業以来の全数検査と「不良ゼロ」へのこだわり

品質管理課では1979年の創業以来、全製品の品質基準を確認・記録する「全数検査」を基本としている。現在、膨大な検査データは電子化され、厳格なトレーサビリティが構築されている。

小倉社長は「万」のトラブル時にも製造番号から記録を即座に特定し、顧客と対応を協議できる。不良品はゼロにすることが当たり前であり、この徹底した仕組みこそが製品の信頼性と品質保証につながる」と語る。

医療分野…「非侵襲・非観血」がん治療用プローブの開発

ジャパンプローブではまた、体外から超音波を照射してがん細胞を壊死させる治療法の開発にも参画。同社の高度な特殊プローブ技術が必要とされ、すでに治験で安全性と有効性が確認された。順調ならば、来年8月から実用にはいる見通しとなっている。

新社屋の完成により、様々な分野でのプローブの役割と可能性が一段と広がってきている。ジャパンプローブは今後、社外との共創をさらに加速させ、製造業の枠を超えて社会課題を解決する「新たな推進機関」として業界をリードしていく。

ジャパンプローブの「フィットする！」超音波探触子

たん

「探」シリーズ

じゅう

たん

「柔探」

溶接部にも直接探傷可能！
超音波ソフトプローブ



たこ

たん

「蛸探」

更に3次元曲面にも対応！
超音波フレキシブルプローブ



かん

たん

「乾探」

接触媒質不要！
超音波ドライカプラント&
フレキシブルプローブ



きよく

たん

「曲探」

曲がるアレイ探触子！
超音波フレキシブル
リニアアレイプローブ



先進技術で未来を見つめる

ジャパンプローブ株式会社

〒232-0033 神奈川県横浜市南区中村町1-1-14
TEL.045-242-0531 FAX.045-242-0541
URL <https://www.jp-probe.com>
E-Mail info@jp-probe.com

無料貸出
サンプルテスト
受付中！

